

How Does the Loan Relation Depend on its Duration?

Evidence from Firm- and Bank-Level Data

企業－銀行間関係の動態的安定性について：

ハザード関数推計からの含意

日本政策投資銀行 設備投資研究所
金融経済研究センター 副主任研究員
宮川大介

要 旨

当論文は、日本の上場企業と銀行との間における長期ローン取引関係の安定性について、実証的に分析したものである。日本の銀行ローン市場に関するユニークなデータセットに Duration 分析の手法を適用することで、取引関係の蓄積を通じて関係のハザード（翌一期間に関係が break-up する確率）が如何なる動態的特徴を示すかを検討している。具体的には、各種の手法に基づく推計から、①当該ハザードが取引関係の duration に対して hump-shape を示すこと、また、②当該ハザードが、個々の企業、銀行、企業－銀行マッチの特性、マクロ変数、制度要因（直接金融市場の発展度合い等）へ、システムティックに依存することを確認している。特に前者は、一定の取引期間を経た後に、企業－銀行間の取引関係が安定化し始めることを示唆しており、既存の理論研究で議論されている「関係特殊資産」の存在を間接的に支持するものと考えられる。

Key words: Bank loan relation; Stability; Duration Analysis

JEL Classification: G21, G32, C41